

# 東腎協

第 1 号

73. 4. 3

東京都腎臓病患者  
連絡協議会 事務局

## 東腎協総会開かれる！

各関係者より多大な支持と期待！

かねてより東京地区の全腎協下部機関設置の準備が進められてきたが、昨年十一月十九日、大手町都立産業会館に於いて、正式に東京都腎臓病患者連絡協議会（略称東腎協）として発足した。当日は衆院選の公示を間近かに控え、又腎臓学会等が重なった為、来賓席にはかなり空席が目立つ様であったが、それでも各界の代表者等約十名近くの出席がみられ、紹介しきれぬ程の激励の祝電が届いた。一方会員席の方は都内在住関係者のみならず、報道機関等で知ったという隣県各地の各会の患者家族も詰めかけての盛況だった。

大会の進行には代々木病院の小林孟史氏が当り、開会の挨拶後、経過報告及結成趣意が事務局の堀江紀久雄氏（三軒茶屋腎友会）によって述べられた。又活動方針案、規約提案が、夫れ夫れ石坂一男氏（虎ノ門病院）、伊藤喜良氏（ニール友の会）によってなされ、一括採択承認された。次に当会会長の寺田修治氏（大久保病院）が会長挨拶に立ち、最後に石川明子さん（三軒茶屋腎友会）の力強い大会宣言によって締めが行なわれたが、参加者や役員の中から熱心な発言が続き、「講演」東大病院第二外科、小池正先生の後、延々と討議質問が続行された。

会長 挨拶

寺田修治

私たち腎臓病患者は、昨年既に全国の患者及び関係者と共に全腎協を結成し、活動してきたところでありますが、本日ここに東京地区の下部機関として、東腎協が結成された訳であります。

私たちの運動の目的は何か、夫れは一言に云って医療の社会化を目指すものといえると思います。現在腎臓病患者は全国で四十数万人いるといわれ、その発病の原因も解らないと言われていますが、食品公害、薬品公害、或いは重金属汚染等の環境破壊及び夫れに伴う大気汚染に、腎疾患の増大に関連があるのではないかと言われ、特に近年は若年層に於ける増加が、指摘されています。これらの多くの腎臓病患者は一旦、発病しますと決定的な治療法も無いままに、長い療養に苦しんだ挙句、その内の何割かは結局腎不全になってしまっているのであります。

近代医学の進歩は、絶望的といわれた腎不全にも人工透析により生きてゆく道を開いてくれました。しかしその恩恵にあづかれる人も未だ極く一部であります。多くの助かるべき人々が設備がない、人員がない、或いは治療費が負担できない等の事情によりみすみす命を失なってしまう、或いは自ら生命を断つてゆくという悲劇が、絶えないのであります。

人工透析については、今年から国の方の更生医療の適用がされる事になりましたが、多くの腎臓病患者は長い療養生活の間に職を奪われ、勉学の道を断たれ、生活を破壊され、挙句のはてには、長らえられるべき生命を失なってしまうのが、現状であります。

この様な現状をみると、私たちは繁栄したと云われる経済生活に較べて、余りにも遅れ過ぎた社会福祉政策、余りにも貧困な社会保障制度というものを、指摘せずにはおられません。私たちは例え病人であっても、一人の人間として当りまえの生活をしたい、健康な人ならばいつまでもその健康を守りたい、これが私たちの願いでもあり、運動の目的でもあります。この様な現状を打破するには、一人一人の力では余りにも無力であります。多くの人々が力を合わせる必要があります。今の社会では、病人や老人はとかく弱者として切り捨てられようとしています。この様な事があってはならないのであります。

社会福祉はその福祉を受けたいと願う者が、希望する様なものでなければならぬものだと思えます。その為に運動は自分自身でしなければならぬ、貴方任せであってはならないと思えます。

本日ここにお集まりの方々と共に、更に多くのの人々と共に手をたずさえて運

動してゆきたいと思えます。

特に東京都の地方自治体の中に占める地位、他の自治体に対する影響力を考えると、東京都に対する働きかけは、非常に重要であると思えます。ここに選出された役員も、この様な運動には未経験であり、微力ではありますが、皆様方の御協力をお願いして簡単にではありませんが、挨拶にかえたいと思えます。

（総会にて収録）

事務局から

堀江紀久雄

○経過成立趣意 私達腎臓病患者にも本年十月よりようやく国庫負担による救いの手がさしのべられる事になった。

しかしながら、この恩恵に預かれる人はほんの僅かに過ぎず、先頃出された四十八年厚生省案を見る限り

○ネフローゼ腎炎等の長期療養者対策の不足

○人工腎臓の不足とその情報網の不備  
○医療従事者の不足による遊休設備の増大

○社会復帰対策への不足

と現実には今後の解決を待たねばならない事柄が多いのが実状である。私達は今後も全腎協を通じ、根強くこの現状を国や世論に訴え続けなければならないのは勿論の事ですが、それと共に私達は私達自身の住んでいる地方自治体である東京都へも、この現状を訴え、地方自治の立場から国よりも一歩先んじた福祉行政を実現し、東京都と共に国へも強力に働きかける必要性を痛感致しました。

それに応え東京都では、いち早く人工透析費の半額負担、十八才未満の全ての腎臓病患者の全額負担を打ち出し、更には衛生局に医療福祉部を設置し、私達腎臓病には特定疾病課がその任に当る事になり、強力に福祉行政の意欲を打ち出し、その動行が全国で注目されるに至り、私達腎臓病患者は従来在京の患者会とその有志が行なって来た東京都への陳情活動を更に強力に行ない、私達の切なる願いを東京都へと託し、地域住民の身になった、血の通った地方自治体独自の福祉行政を実現の為に在京の患者会、患者の組織化の為努力して参りました。

又患者個人からもなるべく近くの多くの人達とも親睦、体験交流をしたいと言われ、共に、ここに東京都腎臓病患者連絡協議会を結成致しました。（裏へ続く）

- 四十七年活動方針案(項目のみ)
- 一 腎疾患の早期発見、早期治療の確立。
  - 二 腎炎、ネフローゼ等の長期療養者の医療費公費負担と生活保障。
  - 三 総合腎センターの設置。
  - 四 専門医療関係者の充実。
  - 五 社会復帰対策の促進。

(議案集掲載)

予算獲得の為

東京都への陳情

小川 忠光

東京都の来年度予算の第一次査定で吾々病人に関する直接の予算が零査定になり復活要求の陳情を去る二月一日難病連の名に於て行ないました。

陳情者 東京都難病団体連合会

代表八名(東腎協より小川が

出席)

陳情先 都庁内、各副知事、関係局部長、政党各党

内容 一、医療関係への研究委託費

四百九十万円

二、市民団体への事業委託費

四百十六万円

の要求に対して第一次査定が零であった。新聞による報道によれば、東京都は四十八年度予算に於て福祉予算に重点を置き前年度予算に対して八〇%増と報道されていましたが、吾々病人に対する予算も相当計上されるものと予想していたが蓋を開けてみたら老人福祉、幼児対策に重点が移されて吾々病人に対するものは殆ど零査定であったので急速東難連の名に於て第二次査定では全額復活認めたいべく前記各部署に対し強力な陳情を行いました。何れの部局へ陳情しても聞いていただく相手方は個人的には一応ものわかりのよいような口振りですが、腹から理解していただき直接予算にまで結びつけることはなかなか、大変な事だと感じました。

思うに過去長い間吾々病人は社会の敗者不浄のものとして表座敷に出入れず片隅に押しやられていたのですから私達の立場を主張し固又は地方団体の庇護を受けようと思えば吾々患者は団結を一層深め何等かの形で力強く主張を繰返す必要があると強く感じました。東腎協ももつと強力な活動をする必要があると愚考いたします。

第二次査定の結果は

①医療関係への委託費三千万円

②市民団体への委託費百五十万円で、

一応の成果を得たとの連絡がありました。東京都は他の都道府県のように市民団体に助成金の形では金は出さない、事業委

託費の形で金を出すようです。従って、吾々東腎協も事業計画をしっかり立て活動を展開すればそれだけ援助はいただけるものと思われれます。東腎協の皆さん大いに頑張りましょう。

役員紹介

会長 寺田 修治(大久保病院)

世田谷区

自宅電

病院電

副会長 小林 孟史(代々木病院)

世田谷区

自宅電

会 計 加藤 茂(代々木病院)

練馬区

事務局長 堀江 紀久雄(三軒茶屋病院)

板橋区

次長 山本 豊(二一レ友の会)

中野区

電(九五二)

同 吉田 修吾(大久保病院)

世田谷区

連絡先

幹事 大智 義之(王子病院)

筑土 隆男(三軒茶屋病院)

伊藤 喜良(二一レ友の会)

牧 清美(個人会員)

岡本 曉(虎の門病院)

平沢 三吾(個人会員)

監査 田中 克人(大久保病院)

同 石坂 一男(虎の門病院)

顧問 小川 忠光(虎の門病院)

大会以後、役員申出

○ 泉山 知威(王子病院)

桜井 謙一(個人会員)

○ 一ノ清明(倭成病院)

藤木 十四男(個人会員)

※紙面の都合により、役員連絡先を三役並びに事務局に限りしました。御了承下さい。

伝言板

●会費未納の方及び新しく加入されたい方へ

会員の方で、まだ会費を納入されていない方、新しく加入を希望されている方は事務局長(堀江まで)お知らせ下さい。会費は年間五百円で、入会金は不用。

●役員と記事募集について

役員が不足で、困っています。意力ある人材を求めています。又当会に対する意見、皆に対して知らせたい事等ありましたら事務局次長(吉田まで)。

●相談室を設けます。

東腎協では、地域住民との密接なる連絡を持つ為に紙上相談室を設置する事になりました。気軽に御相談下さい。直相談には、幹事の牧が当ります。(送付先は、記事の募集と同じく吉田迄)

編集後記

ようやく、機関紙を発刊できてほっと一息入れた所です。何分その関係では、素人なので不備な点は沢山あるかとは思いますが、皆様方と共に一つ一つ改善していきたいと思います。

